

平成21年度
赤谷森林環境保全ふれあいセンター活動報告
ー赤谷プロジェクトの取組みー



はじめに

赤谷森林環境保全ふれあいセンター（以下、「赤谷センター」とします。）は、平成16年4月1日に全国10箇所（現在は11箇所）に設置された森林環境保全ふれあいセンターの一つとして発足しました。

赤谷センターは、その発足と同時に始まった国有林約1万ヘクタールを官民の協働で森林生態系の管理をしていく「三国山地/赤谷川・生物多様性復元計画」（以下、「赤谷プロジェクト」とします。）の、国有林側の現地担当機関として赤谷プロジェクトの推進を主な業務として活動しています。

赤谷プロジェクトの取組みは多岐にわたっています。そこで、赤谷センターの活動を通して赤谷プロジェクトの全体像がわかるよう、平成21年度の赤谷センターの取組みをまとめました。

春：カタクリ



夏：ニッコウキスゲ



秋：タマゴダケ



冬：茂倉沢2号ダム



目 次

- I 赤谷プロジェクトについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

- II 調査研究等の活動
 - 1 植生モニタリング調査
 - 2 猛禽類モニタリング調査
 - 3 ほ乳類モニタリング調査
 - 4 環境教育ワーキンググループの活動
 - 5 溪流環境復元に向けた取組み
 - 6 茂倉沢治山事業・No.2ダム中央部撤去について

- III 環境教育活動の実施
 - 1 環境教育の手法
 - 2 環境教育の実施状況

- IV 地域との連携
 - 1 地域協議会等への参画
 - 2 「ムタコの日」の開催

- V 各種研修の実施
 - 1 森林生態系スペシャリスト養成研修
 - 2 JICA海外技術研修「持続可能な森林経営の実務活動促進Ⅱ研修」
 - 3 「アマゾン群馬の森」JICA草の根技術協力事業
 - 4 JICA国別研修・インド環境森林省

- VI 普及宣伝活動
 - 1 情報誌「赤谷の森だより」の発行
 - 2 関東森林管理局広報誌「関東の森林から」への寄稿
 - 3 メディアを活用した広報活動
 - 4 ホームページによる広報活動

- VII その他の活動
 - 1 赤谷の日
 - 2 「赤谷の森」来訪者一覧(2009年4月～2010年3月)

I 赤谷プロジェクトについて

赤谷プロジェクトは群馬県みなかみ町北部に広がる国有林を、地域、自然保護、そして森林管理・行政の視点を持つ3つの機関、つまり、赤谷プロジェクト地域協議会、(財)日本自然保護協会、関東森林管理局が協働で森林生態系管理をしていくプロジェクトです。

プロジェクト活動地域は「赤谷の森」と呼ばれている、約1万ヘクタール(10km四方)の国有林です。プロジェクトではこの広大な森林を森林生態系の流域ごとのまとまりと人の利用の歴史にあわせて大きく6つのエリアに区分し、管理していくこととしています。

赤谷プロジェクトでは、2つの大きな目標を掲げています。それは、この地域の地形や地質、気象に応じた多様な森林生態系の保全・復元を科学的根拠に基づき進めていく「生物多様性の復元」と、現在ある自然をよりよく保全しながら、損なわないように活用していく「持続的な地域づくり」を進めていくことです。

赤谷プロジェクトの中で最も重要な会議が「企画運営会議」です。この会議がプロジェクトの意思を決定する機関であり、全てのプロジェクト活動の最終的な決定を行っています。平成21年度は、平成21年12月7日と平成22年3月23日に2回開催されました。また、企画運営会議開催に当たっての事前調整を目的として、「調整会議」が平成21年12月3日に1回開催され、短期的な課題の処理や調整を行っています。

また、「赤谷の森」における植生管理や猛禽類など多方面にわたる調査研究内容を統括し、プロジェクトの活動について科学的立場から助言していくために、「自然環境モニタリング会議」があります。そして、内容ごとに具体的な調査・検討を行うワーキング・グループ(以下、「WG」とします。)を組織しています。

現在活動しているWGは、①植生管理WG、②猛禽類モニタリングWG、③ほ乳類モニタリングWG、④溪流環境復元WG、⑤環境教育WG、⑥地域づくりWG、⑦フィールド利用マネジメントWGの7つです。

これらの活動を、プロジェクトの中核となっている3機関の関係者が外部の専門家とともにを行っています。

さらに、プロジェクトの趣旨に賛同されたボランティア(「サポーター」と称しています。)の方々が毎月第一土曜日・日曜日(以下、「赤谷の日」とします。)にプロジェクトの活動拠点である「いきもの村」(みなかみ町相俣地区にある国有林の旧苗畑跡地を再整備した施設)に集まり、赤谷プロジェクトを支える様々な活動を行っています。

